

『雨のうた』の和音で旋律づくり(3～4時間扱い)

～題材3『和音のひびきや音の重なりを感じ取ろう』における(イ)*の指導事項を中心にした音楽づくり

*音楽づくりのア、イ及びウの各指導事項の(イ)

学習のねらい

- (1) 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の縦と横との関係などの音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付ける。
- (2) 旋律、和音の響き、音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。
- (3) 和音の響きの移り変わりや音の重なりを感じ取って旋律をつくる学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組み、和音の響きや音の重なりに親しむ。

教材や教具

●『雨のうた』の和音で旋律づくり 二次元コード

「雨のうた」(イ短調)の1～4小節目の和音進行(I→V→I→V→I→V→I→V)に合わせ、音の上がり下がりを考えながら、4分の4拍子で4小節の自分の旋律をつくる。ペアになり、自分たちがつくった二つの旋律をつなげたり重ねたりしながら、17小節の音楽をつくり、発表し合う。

主に扱う音楽を形づくっている要素

ア 旋律、和音の響き

イ 音楽の縦と横との関係

知識・技能（知・技）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
①知 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて理解している。 ②技 思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の縦と横との関係などの音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。	思① 旋律、和音の響き、音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。	態① 和音の響きの移り変わりや音の重なりを感じ取って旋律をつくる学習に興味・関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。

学習の流れ

ステップ1 イ短調の和音と低音を聴き、響きの移り変わりを確かめる。

- 教科書P.30の和音と低音を、その響きの移り変わりに気を付けて聴き、教科書P.28の「雨のうた」の1～4小節目の和音と低音であることに気付く。
- イ短調のI→V→I→V→I→V→I→Vの和音の響きを聴きながら体の動きで和音を表し、その響きの移り変わりを確かめる。
- 和音の構成音を使うと、和音の響きに合う旋律にできるということを思い出し、イ短調のIとVの和音に含まれる音を確認する。

ポイント

- イ短調のI、IV、Vの和音の響きを聴きながら体を動かし、その響きの違いを感じ取る常時的な活動を積み重ねておきます。

<例>



1度の和音



4度の和音



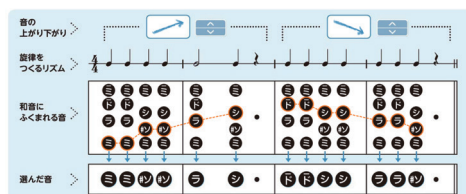
5度の和音

5度の7の和音

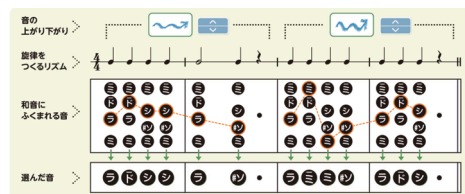
ステップ2 和音に含まれる音を使って、音の上がり下がりを考えながら旋律をつくる。

- 1 教科書P.31の〈例1〉、〈例2〉を旋律の音の上がり下がりに注目して聴き、どのような感じがするかを話し合う。

〈例1〉 つばささん



〈例2〉 まなぶさん



つばささんのつくった旋律〈例1〉は、どんな感じがしますか。

前半は盛り上がって行って、後半は落ち着いてくる感じがします。



まなぶさんのつくった旋律〈例2〉は、どんな感じですか。

音の高さがあまり変わらなると滑らかな感じがするけど、大きく変わると躍動感が出て盛り上がる感じがします。



和音の響きの移り変わりは同じでも、音のつなげ方によって音楽の感じが変わりますね。みんなも、どのような旋律にしたいか考えながらつくりましょう。

ポイント

- ・指導者が〈例1〉の旋律を二次元コードコンテンツの「**自分の旋律**」に、〈例2〉の旋律を「**相手の旋律**」に入力して提示し、つばささんとまなぶさんの思いや意図を共有して再生することで、音の上がり下がりや旋律の感じとの関わりを視覚的にも捉えやすくなります。また同時に、子供に二次元コードコンテンツの使い方を示すこともできます。

- 2 音の上がり下がりを生かし、どのような旋律にしたいかを考えながら、和音に含まれる音を選んで4小節の旋律をつくる（二次元コードコンテンツ「『雨のうた』の和音で旋律づくり②（自分の旋律）」を活用）。

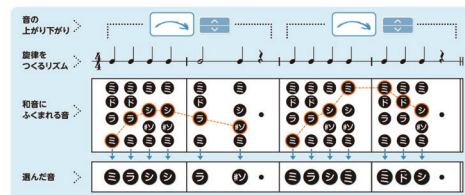
ポイント

- ・どのような4小節の旋律をつくりたいか、試行錯誤しながら考えるようにします。和音の響きをよく聴き、音の上がり下がりを生かした自分の思いや意図に合う旋律になっているかどうかを、何度も聴いて確かめながらつくるように声掛けをすることが大切です。つくった旋律をリコーダーや鍵盤ハーモニカなど実際の楽器で演奏して確認し、自分の旋律の特徴やよさを実感することも重要です。

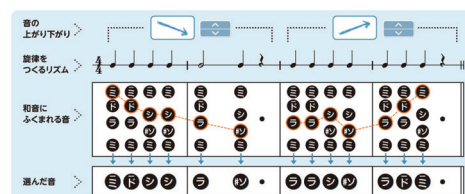
3 つくった旋律のよさや面白さを、自分の思いや意図と関わらせてワークシートに書く。

<記述例>

前半は少し上がってから下がるけれど、後半は大きく上がってから下がるようにして盛り上がる感じにした。



前半は高い音から滑らかに下がっていき、終わりでは高い音へ上がるようにして、和音と低音と一緒に聴いたら、いちばんきれいな感じの旋律ができた。



ポイント

- ・和音の響きに合わせて旋律をつくっていくので、その響きとの関わりについての記述があった場合も、学級全体に紹介するなどして、音楽の縦（和音）と横（旋律）との関わりを意識できるようにします。

評価

①知 音のつなげ方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて理解しているか、自分の旋律をつくっている際の行動観察やワークシートの記述内容から評価します。

②態 二次元コードコンテンツで和音と低音を聴いて、響きの移り変わりを感じ取りながら、自分の思いや意図に合った旋律に近づくよう、音のつなげ方をいろいろ試して粘り強く取り組んでいるかを見取っていきます。

ステップ3 つくった旋律を二人でつなげたり重ねたりして、そのよさや面白さを感じ取る。

- 教科書P.31の<例1>、<例2>の旋律をつなげたり、同時に重ねたり、ずらして重ねたりした音楽を聴き、どのような感じがするか伝え合う。



<例1>と<例2>の旋律をつなげたり重ねたりして、二次元コードコンテンツで聴いてみましょう。それぞれ、どんな感じがしますか。

つなげると、一人一人の旋律がよく分かります。



同時に重ねると、和音のきれいな響きを楽しめました。響きに奥行きがある感じがします。



ずらして重ねると、一つの音に聴こえる部分と重なる部分があって、面白いです。



- 2 ペアになり、互いの旋律を聴き合い、自分がつくった旋律についての思いや意図、工夫した点などを伝え合う。

ポイント

- ・ここで相手の旋律の特徴を捉えておくと、このあとの活動で相手の旋律とつなげたり重ねたりしたときに、自分たちの旋律ならではの音のつなげ方や音の重ね方のよさや面白さに気付くことにつながります。

- 3 相手のつくった旋律を二次元コードコンテンツ「『雨のうた』の和音で旋律づくり②(相手の旋律)」に入力し、「『雨のうた』の和音で旋律づくり③」で自分たちのつくった旋律のいろいろなつなげ方や重ね方を試しながら、そのよさや面白さを感じ取る。



私の旋律のあとにBさんの旋律をつないだ方が、音のつながりがいいね。



私の旋律は、だんだん下がってくるけど、Aさんの旋律はだんだん上がるから、同時に重ねるときれいだね。

- 4 自分たちが感じ取った旋律のつなげ方や重ね方のよさや面白さをワークシートに書き、伝え合う。

<ワークシート記入例>

「雨のうた」の和音で ^{せんりつ} 旋律づくり		組 名前 ()
●二人の旋律をつなげたり重ねたりして感じ取ったひびきのよさやおもしろさについて書きましょう。		
二つの旋律をつなげたとき	二つの旋律を同時に重ねたとき	二つの旋律をずらして重ねたとき
それぞれのせんりつがよくきこえる。 私のせんりつの終わりの音とBさんのせんりつの始まりの音が近いので、私からBさんの順につないだほうがつながりがよかった。	たまたま二人の音と一緒にところがあったので、一つの音にきこえたり和音になったりして、ちがうひびきを楽しめた。	とちゅうから重なって追いかけているみたいでおもしろい。

ポイント

- ・タブレット端末で再生した音を聴くだけではなく、リコーダーや鍵盤ハーモニカなどでも実際に演奏すると、互いの旋律の特徴を生かしたつなげ方や重ね方のよさや面白さを実感することができます。

評価

- ①知 ペアで旋律のいろいろなつなげ方や重ね方を試している際の発言内容や、ワークシートの記述内容から評価します。

態① 自分たちがつくった旋律の特徴を伝え合ったり、二次元コードコンテンツで旋律のいろいろなつなげ方や重ね方を試したり、実際に楽器で演奏したりする様子から、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に取り組もうとしているかを継続して見ていきます。

ステップ4 つくった旋律をつなげたり重ねたりして、17小節の音楽をつくる。

- 1** ステップ3で見付けた旋律のつなげ方や重ね方のよさや面白さを生かして、教科書P.31の「つくるときの約束事」に従い、ペアで17小節の音楽をつくる（二次元コードコンテンツ『雨のうた』の和音で旋律づくり④を活用）。

最初は、自分と相手の旋律が分かりやすいように、つなげて始めたいな。



次は同時に重ねて、和音の奥行きのある響きで盛り上げたいな。



最後の小節は、ラとミにすると、静かに終わる感じになっていいな。

ポイント

- ・二次元コードコンテンツを活用して曲全体の構成を客観的に聴いたり、リコーダーや鍵盤ハーモニカなどで演奏して確かめたりすることを繰り返しながらつくっていきます。
- ・重ねる部分ばかりでつくっているペアには、状況に応じてつなげる部分も入れると響きに変化が生まれ、それぞれの旋律のよさが生かせることを助言します。
- ・17小節目は終わる感じを表現するために、どの音を選んで組み合わせるのか、または単音で終わるのか、子供たちもこだわって音を決めたいでしょう。最後の縦の響きだけでなく、16小節目の旋律からの横のつながりも考えるよう声掛けをすると、楽器で演奏しやすく、まとまりのある旋律になります。
- ・途中で、つくった音楽を2～3組のペアで聴き合ったり、互いの音楽のよさや面白さについて伝え合ったりして、ほかのペアの工夫を取り入れながら自分たちの音楽を仕上げることも考えられます。

評価

思① ペアでまとまりのある音楽にするために、どのような旋律のつなげ方や重ね方にするか話し合っている発言内容や、思いや意図及び工夫したことを記述したワークシート、二次元コードコンテンツでつくった音楽から評価します。

態① ペアで全体のまとまりを意識した音楽をつくっている様子から、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に取り組もうとしているかを継続して見ていきます。

- 2** つくった音楽を和音と低音に合わせて、リコーダーや鍵盤ハーモニカなどで演奏する。

ポイント

- ・曲の速度も曲想と関わりがあることを思い出させ、二次元コードコンテンツの和音と低音に合わせて演奏する際に、ペアの思いや意図に合った速度で演奏するように伝えます。

- 3** 学級全体で、つくった音楽を和音と低音に合わせて発表し、そのよさや面白さについて、気付いたことや感じ取ったことを伝え合う。

ポイント

- ・発表するペアの二次元コードコンテンツ「『雨のうた』の和音で旋律づくり④」の画面を電子黒板などに映しておく、和音と低音を聴きながらそれぞれの旋律のよさやそのつなげ方や重ね方のよさを、視覚的にも確認することができます。

評価

技② 二次元コードコンテンツでつくった音楽やワークシートの記述内容から評価します。音楽の縦と横との関係などの音楽の仕組みと、フレーズのつなげ方や旋律の重ね方との関わりを生かしてつくっているかどうか、全体をどのようにまとまりのある音楽にしようと考えてつくっているかなど、つくった音楽や子供の発言内容から読み取ることが大切です。

評価ガイド

本学習は、学習指導要領のA表現(3)音楽づくりの(イ)*の指導事項に当たる内容です。**ステップ2**では、和音の構成音を使用して、音の動きを考えながら自分の思いや意図に沿った旋律をつくります。このときに、自分がつくった旋律の音のつなげ方の特徴をそのよさや面白さと関わらせて理解し、**ステップ3**でペアになる相手と伝え合うことが、旋律のよさや面白さを生かした音楽をつくるうえで重要です。

ステップ3では、つくった二つの旋律のいろいろなつなげ方や重ね方を試しながら、それらが生み出すよさや面白さを見いだしていきます。ここでAと評価される子供は、自分たちの旋律の特徴を理解し、自分が気付いた旋律のつなげ方や重ね方のよさや面白さを具体的に発言したりワークシートに書いたりしている状況といえます。それらを生かして、**ステップ4**でまとまりのある17小節の音楽に構成していきます。

*音楽づくりのア、イ及びウの各指導事項の(イ)

他題材や他学年との関連

全体のまとまりを意識し、音の動きを考えて旋律をつくる学習は、1年生「せんりつのよびかけっこ」や3年生「ラドレの音でせんりつづくり」、4年生「『さくら さくら』の音階でせんりつづくり」、5年生「『静かにねむれ』の和音で旋律づくり」で積み重ねてきました。特に5年生での、ハ長調のⅠ→Ⅳ→Ⅰ→Ⅴ $\rightarrow$ Ⅰの和音に含まれる音を使い、和音の響きの移り変わりを聴きながら音の動きを考えて旋律をつくった経験が本題材に生きてきます。これらの学習を生かしながら、自分の思いや意図を膨らませて旋律をつくります。

本教材では、和音の響きの移り変わりが繰り返されることから、つくった旋律をずらしても重ねてもその響きに合った表現になることを生かして音楽を構成します。ここでつくった音楽は、多声的な重なりや和声的な重なりのよさや面白さを感じ取ることができます。そのため、ほかの領域や分野の教材を扱う際にも関連します。音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら表現を工夫したり音楽を味わって聴いたりすることにつながるだけでなく、中学校の「旋律創作」や「音素材の特徴や構成上の特徴」を理解する学習への橋渡しになると考えています。

ワークシート

「雨のうた」の和音で^{せんりつ}旋律づくり

組 名前 ()

●二人の旋律をつなげたり重ねたりして感じ取ったひびきのよさやおもしろさについて書きましょう。

二つの旋律をつなげたとき	二つの旋律を同時に重ねたとき	二つの旋律をずらして重ねたとき